

今回は、講師が過去に経験したシンプルなケースを材料に学びます。

今回は、

1. ケースに取り込む際の基本と
2. 「全体像」をどう捉えるか？とそれに沿った症状（Rubrics）をどう選ぶか？  
考えて行きます。

さて、

◆ホメオパスの使命・役割とは何でしょうか？

ご存知のように、ハーネマンは、「オルガノン §1～3」で述べています。

§1＝病気の人の健康を再建すること

§2＝素早く・穏やかに・永続的な治癒を目指す

§3＝ホメオパスの役割

1. 病を知る。
2. レメディを知る。
3. 適用の仕方を知る。

◆クラシカルホメオパスは、全体像を広く見すぎてしまうという間違いを起こしやすいと言われています。なぜだか、分かりますか？

全体像の見方

ケースの「目のつけどころ」をどのように見るか？は、とても大切です。

全体像を狭く見すぎるとレメディは限定的すぎて、時に抑圧的に働いてしまいます。

逆に広く見すぎると、ピンボケで何も変化が起きません。

ケース全体をよく理解した上で、適切な「全体像」を捉え、その全体像に類似したレメディを考えて行くことで、必要なレメディを選ぶことが出来ます。

◆CHKがお勧めするケースへの取り組みかた

ケースを取って、レメディを考えて行く時「クライアントさんの何が癒されるべきか？（病の中心）」を理解することが大切です。それが、ケースに適切なレメディを見極めるのに一番大切な点です。

CHK でおすすめするケースを取ってからレメディ決定までのプロセスは、次の通りです。これは、CHK 講師の 3 人が、ダイナミクススクールで、3 年間学んだ方法を基本に置いたものです。このやり方を始めて以来、レメディ選びの精度が上がったと思います。

## 「CASE への取り組み方の基本」

1. まず、CASE を一読して、ケースの①印象を書き留める。
2. 再読して、クライアントの特徴的な点（症状）をピックアップする。
3. ピックアップした特徴的な点の全体を眺めてみる。
4. これらを元に、まずは、ざっくりと「前分析」を試みる。
  - ①印象
  - ②健康度（0～10）
  - ③予後（良いレメディがある時／レメディがない時）は、どうなるか？
  - ④救急性（急性か慢性か～救急性があれば、すぐにそこから始める）
  - ⑤治癒を妨げているものの有無は？
  - ⑥親和性（部位）
  - ⑦マヤズム傾向（Psora Sycosis Syphilis Cancer TB 等～またいつか勉強します）
  - ⑧全体性（CASE での乱れはどこにあり、レメディはいくつ必要になるか？）
  - ⑨バイタリティー
5. 本分析＝「何が癒されるべきか？」（病の中心 **Wesen**＝統合）をとらえる。
6. 「何が癒されるべきか？」から外れない症状を Rubrics として選び、Rep.する。
7. Rep.表の候補レメディから、ベストレメディを選ぶ。
8. 最終的には、ポテンシーとドーズを決めて、クライアントに提案する。

さて、CASE 学習では、この教室を出たら、決して、その内容について話すことなく、守秘義務を守って下さい。

では、始めましょう。